

# 千葉市美術館 2021年度 展覧会スケジュール

## 企画展

### 大・タイガー立石展 POP-ARTの魔術師

2021年4月10日[土]—7月4日[日]

絵画、陶彫、マンガ、絵本、イラストなどのジャンルを縦横無尽に横断しながら独創的な世界を展開したタイガー立石(立石紘一、立石大河亞/1941-98)。時代や社会を象徴するイメージを多彩に引用して描かれたその作品は、和製ポップ・アートのさががけとして注目を集めました。65年からはナンセンスな漫画を描きはじめ、当時子どもたちの間で流行した「ニャロメ」という言葉は赤塚不二夫と交流があった彼の造語でした。85年からは千葉・市原市を拠点に活動、絵本や陶彫作品も制作しました。本展では、立石の不思議で魅力的な世界を、約200点の作品、資料からふり返ります。

《富士のDNA》1992年 courtesy of ANOMALY



## 企画展

### 平木コレクションによる 前川千帆展

2021年7月13日[火]—9月20日[月・祝]

前川千帆(1888-1960)は、日本近代の創作版画において、恩地孝四郎・平塚運一とともに「御三家」と称された作家です。漫画家として名を成すかたわら木版画を手がけ、清澄な彫摺とユーモラスな造形により独自の創作版画を拓いた前川千帆の作品世界は、今なお色褪せない魅力を放ちます。本展は、浮世絵の大コレクションで知られる公益財団法人平木浮世絵財団の所蔵品を中心に、約350点から前川千帆の画業を総覧するものであり、44年ぶりの大回顧展となります。

前川千帆 《屋上風景》 昭和6年(1931) 公益財団法人平木浮世絵財団蔵



## 企画展

### 江戸絵画と笑おう

2021年7月13日[火]—9月20日[月・祝]

素敵な作品と出会い、思わず笑顔になることってありませんか?千葉市美術館のコレクションから戯画や禅画を中心にご紹介する本展で、ユーモラスな表現に「くすり」、作者のきらめく感性にやられて「にやり」、ほのぼのとした描きぶりに「うふふ。」笑い方が様々あるように、多彩な江戸絵画や明治の版画と触れ合い、和やかに親しむひと時をお楽しみください。

左:昇斎一景《東京名所三十六戲撰 両国花火》青木コレクション(千葉市美術館寄託)  
右:仙厓義梵《鐘馗図》江戸時代後期 旧ピーター・ドラッカー 山荘コレクション(千葉市美術館寄託)



## 企画展

### 福田美蘭展

2021年10月2日[土]—12月19日[日]

福田美蘭(1963-)は、東京藝術大学を卒業後、最年少での安井賞や国際展での受賞等、国内外での活躍を通して独自の作風を切り拓き、絵画の新たな可能性に挑戦し続けている美術作家。本展は、千葉市美術館の所蔵作品、中でも江戸絵画コレクションをテーマに制作した福田美蘭の新作を中心に構成します。

左:福田美蘭《風俗三十二相 けむさう 享和年間内室之風俗》2020年 作家蔵  
右:月岡芳年《風俗三十二相 けむさう 享和年間内室之風俗》明治21年(1888) 千葉市美術館蔵



## 企画展

### ジャポニスム 世界を魅了した浮世絵

2022年1月12日[水]—3月6日[日]

19世紀後半、大量に海を渡った日本の美術工芸品はジャポニスムという動向となってヨーロッパで一世を風靡しました。中でも浮世絵版画は西洋画家たちに大きな影響を与えました。彼らが浮世絵に出会った時、何を新しいと感じ、感動し、自らの芸術に取り入れようとしたのか。本展では国内外の浮世絵の名品を中心に、欧米、ロシアからジャポニスムの作品を加えた約200点で、世界が魅了された浮世絵の表現を多角的に検証します。

左:鈴木春信《夜の梅》明和3年(1766)頃 メトロポリタン美術館蔵  
右:アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ディヴァン・ジャポネ》1893年 ジマール美術館蔵



## 企画展

### 第53回 千葉市民美術展覧会 | 千葉市美術館所蔵作品による 房総ゆかりの美術(仮称)

2022年3月12日[土]—4月1日[金]

## つくりかけラボ

つくりかけラボ03 武藤亜希子 C+H+I+B+AARTシェアばたけ

2021年4月15日[木]—7月4日[日]

つくりかけラボ04 飯川雄大 デコレータークラブ

-0人もしくは1人以上の観客に向けて

2021年7月14日[水]—10月3日[日]

つくりかけラボ05 松本力 SF とりはうたう ひみつ

2021年10月16日[土]—12月26日[日]

つくりかけラボ06 岩沢兄弟

2022年1月—3月